令和4年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会うきは幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	収組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を揚げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
Ⅱ 保育のあり方・子 どもへの発達に応じ た対応	子ども主体の保育を重視し、それぞれの年齢に応じて子ども自身の力が十分発揮されるよう、また発達に合わせた遊びが展開できるよう、取り組んだ。 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、異年齢の活動を制限することが多かったが、常時職員間で話し合い、感染対策に配慮しながら保育が充実するよう工夫した。
Ⅲ 保育者としての 資質や能力、良識、 適正	若い保育士の新しい発想やベテラン保育士の豊富な専門的知識、技能をうまくかみ合わせながら日々の保育に取り組んでいる。 保育を振り返ることでチーム保育の在り方を見直し、クラス運営がスムーズにいくよう努力してきた。また、自分自身の振り返りを特に重視し、不適切保育についても話し合う機会を持つなどして、保育士の資質向上に努めた。
Ⅳ 保護者への対 応·支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重している。 家庭と対等な関係を築いて互いに協力しながら子どもの育ちを支え、成長や 喜びを共有していきたいという考えのもと、保護者支援に力を入れている。 コロナ禍という事もあり、保護者の不安や、様々な悩みも増えてきた傾向に あったので、保護者面談等を行いながら、支援につなげていった。 また日々の保育の様子は連絡帳アプリを通して豊富な情報発信を行い、家 庭と園が子どもの育ちを共有できるように努めている。
V 地域や社会との 関わり・地域子育て 支援	昨年度同様、幼老連携の取り組みとして、同敷地内の高齢者施設への訪問はできなかったが、手を振ったり、窓越しや 2 階の部屋から遊ぶ様子を見てもらい、互いが意識しあえるように心掛けた。 また、例年行ってきた地域との関りとしての近隣のデイサービスや老人ホームへの慰問、園庭開放は、昨年同様の理由で休止している。 今後は感染状況を把握しながら、少しずつ交流の再開に取り組んでいきたいと考えている。
6 保育者の専門性 に関する研修・研究 への意欲、態度	法人全体の若手研修を含め、市内のグループ研修、園外の on-line 型研修などに積極的に参加し、職員が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。また、入職した職員を対象として保育方針説明会を行い、保育に対する考えの共有を図っている。職員全体では、外部のオンライン研修を受講し、キャリアアップに努めた。また、職員との面談を行い、個々の保育に関する課題を見出し、更なる意欲を高めるよう取り組んだ。